

事業スケジュールについて(3年間)

	実証地域名 佐賀県教育委員会						実証校① 武雄市立北方小学校		実証校② 武雄市立北方中学校		実証校③ 佐賀県立有田工業高等学校(全日制)		実証校④ 佐賀県立中原特別支援学校		備考
	平成26年度						平成27年度				平成28年度				
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上半期		下半期		上半期		下半期		
(1) 地域における教育体制の構築方法	①異なる学校間、学校種間の情報共有・連携 異なる学校間や学校種間でスムーズに情報共有を実施するため、実証校4校の環境の調整と構築 ・持ち帰り検証用端末の整備 ・電子黒板等の整備 ・持ち帰り検証用のルータの整備						異なる学校間(小中高校)における情報共有 ・その情報共有にあたっての課題や問題点を抽出				課題解決への取組 ・異なる学校種間(小中高校と特別支援学校間)において情報共有 ・全県で展開する具体的な計画を立案				
	②学校と家庭の連携 学校と家庭の連携に必要なネットワーク環境の構築						学校から家庭への連絡を充実 ・連絡を充実させるために必要となる作業や効果等を検証				学校と家庭との双方向性の確立 ・学校と家庭における相互の連絡体制の確立 ・全県で展開するためのガイドライン等の作成				
(2) 新たな学びに対応した指導方法の充実および指導力の育成方法	①学校種や各教科等に応じた指導方法の開発 モデル指導例、デジタルコンテンツの作成 高校1年生用 高校2年生用 遠隔授業体制の構築 年度内作成教材の編集 テレビ会議システム等の活用に必要な環境調査及び整備						高校2年生用 年度内作成教材の編集 1年教材との関係整理 テレビ会議システム等を活用したプログラミング学習 小学校・中学校:論理的思考力育成のためのプログラミング学習の実施 高等学校・特別支援学校:就労支援につながるプログラミング学習等の実施(企業等、専門家との連携を含む)				高校1、2年生用教材の見直し、拡充 全県下への普及展開、特別支援学校との共有可能性の テレビ会議システム等を活用したプログラミング学習 小学校・中学校:論理的思考力育成のためのプログラミング学習の実施 高等学校・特別支援学校:就労支援につながるプログラミング学習(企業等、専門家との連携を含む)				
	②教員の研修体制の構築(研修体制の構築、教科別協議体制の構築等) 各校の推進リーダーを核とした教職員体制の確立・強化 指導主事の定期的な学校訪問等、学校現場でのフォローを実施						各校の推進リーダーを核とした校内教職員研修の充実 連携 教科別研究会の計画的な実施 教育情報課等に所属する指導主事による定期的な学校訪問によるフォロー				各校の推進リーダーを核とした校内教職員研修の充実 連携 教科別研究会の計画的な実施 教育情報課等に所属する指導主事による定期的な学校訪問によるフォロー				
(3) デジタル教材の利便性の向上方法	地域内の学校が相互に活用できる教材の蓄積・提供 タブレットPCにダウンロードする教材の利用 クラウド教材活用準備 佐賀県独自の教育情報システム(SEI-Net)機能 総務省事業で提供されるクラウド上の教材等を試行利用し、本県が独自に構築した教育情報システム(SEI-Net)の利用と比較することで、教育クラウドの利用にあたっての課題を抽出し、必要となる利用環境等を整備 タブレットPCのOSに依存しない教材利用(その学習にあった端末を利用することで、適宜検証)						教材の利用シーンや教材種類を考慮し、状況に応じて教育情報システム(SEI-Net)を活用したり、学校サーバを活用したりした教材利用を実施				クラウド上の教材を本格利用				
その他 特色ある取組 独自の取組	①小・中・高校、特別支援学校のシームレスな連携 佐賀県と武雄市とで佐賀県独自の教育情報システム(SEI-Net)を中心としたネットワークを構築 ・全市町での佐賀県独自の教育情報システム(SEI-Net)の活用につなげていくための条件整備と利用促進														
	②特別な支援を必要とする児童生徒の将来の就労、自立を見据えた学習機会を提供(進路保障)するため、遠隔授業等を活用したプログラミング学習 佐賀県独自の教育情報システム(SEI-Net)やテレビ会議システムを活用による学習支援の充実 ・長期間の入院等で学習活動が困難な児童生徒の学校への復帰の支援 ・学校不応等の理由で通常の学校や教室での学習が困難な児童生徒に新たな学習環境を提供 等 特別な支援を必要とする児童生徒の将来の就労、自立を見据えた学習機会の提供(進路保障) ・遠隔授業等を活用したプログラミング学習 等														

学力調査・アンケート調査の概要について

実証地域

佐賀県教育委員会

No.	調査名	調査の概要	対象校 ・学年	調査の目的	調査の活用方策	備考
1	教育情報の共有に関する調査	異なる学校間、学校種間での教育情報の共有についてアンケート及び代表者へのヒアリング	各実証校	<ul style="list-style-type: none"> 異なる学校間、学校種間において、教育情報の共有、連携が円滑になされたかを測定するため。 学校と家庭の連携が円滑になされたかを測定するため。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の取組への反映 全県展開に当たってのガイドライン作成 	
2	指導法や教材の共有に関する調査	異なる学校間、学校種間での指導法や教材の共有についてアンケート及び代表者へのヒアリング	各実証校	<ul style="list-style-type: none"> 異なる学校間、学校種間において、指導法や教材が適切に共有されたかを測定するため。 教職員研修の効果を測定するため。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の取組への反映 全県展開に当たってのガイドライン作成 	
3	学力向上に関する調査	実証校の児童生徒に対する学力向上に関するアンケート(必要に応じてヒアリング)やCRT検査による学力状況の調査	各実証校	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施による学力向上を測定するため 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の取組への反映 全県展開に当たっての根拠データの蓄積 	
4	学校と家庭の連携に関する調査	学校と家庭間の連絡の充実等による学校や子どもの学習状況の理解の深まり等について、実証校の生徒の保護者(調査内容にあわせて対象となる保護者に協力を依頼)に対するアンケート(必要に応じてヒアリング)	各実証校	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭の連携に関する保護者の受け止めを測定するため 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の取組への反映 	

※調査項目が足りない場合は、行を追加して記載すること